

飛生芸術祭

2009年にスタート、主軸となる「飛生の森づくりプロジェクト」(2011～)の半年間を通して、飛生のアイヌ語源から神話を仮説し、森づくり=作品づくり=人づくりを実践。普段は静かな制作アトリエである旧校舎で、年に一度様々な表現を通して沢山の出会いと交流を生み出している。近年は滞在制作アーティストの招聘、白老町内での展示など創作の可能性を広げている。

国松希根太 (飛生アートコミュニティ代表)
 KUNIMATSU Kinetta
 1977年、札幌市生まれ。多摩美術大学美術学部彫刻科を卒業後、2002年より飛生アートコミュニティ(北海道、白老町)を拠点に制作活動を行なう。近年は、地平線や水平線、山脈といった風景の中に存在する輪郭(境界)を題材に彫刻や絵画、インスタレーションなどの作品を制作している。また、アヨロラボラトリーの活動としてアヨロと呼ばれる地域を中心に土地のフィールドワークを続ける。飛生アートコミュニティ代表。



木野哲也 (TOBIU CAMP代表)
 KINO Tetsuya
 1978年稚内市生まれ、北斗市出身。北海道東海大学国際文化学部比較文化専攻卒。在学中より芸術文化分野における様々な領域の企画運営を実践。各地域でのプロジェクトの経験を活かし、現在白老町にて文化と交易を軸とした地域の文化創造事業に携わる。札幌国際芸術祭2017企画メンバー、飛生アートコミュニティディレクター、TOBIU CAMP代表。



佐塚真啓 (アーティスト、国立奥多摩美術館館長)
 SATSUKA Masahiro
 1985年静岡県静岡市生まれ。丑年。おうし座。長男。A型。右利き。1992年鳥山明の漫画ドラゴンボール27巻に出会い、初めて人の創り出したモノで感動する。中学、高校は丘の上の男子校に通う。チャリ通。2004年静岡中央美術研究所にて1浪、絵を学ぶ。2005年武蔵野美術大学入学と共に上京。ムサビ在学中の2007年同級生と共に「3番GALLERY」を企画。2009年ムサビ卒業。2011年青梅市に移住。2012年友人知人と共に「国立奥多摩美術館」を企画。2009年から民具などの博物館資料を園化する事、人の手伝いなどによってなんとか生計をたてている。常に「美術」という言葉がいろいろな物事を考えるときのキーワードになっている。1日8時間の睡眠を心掛けている。冬はガタガタ震え、夏はダラダラ汗をかき過ごしている。



亜女会
 アジア女性舞台芸術会議実行委員会(亜女会)は、1980年代に故如月小春(劇作家、演出家)、故岸田理生(劇作家、演出家)が始動させた「アジア女性演劇会議」の活動に影響を受け、2012年末、羊屋白玉(劇作家、演出家、俳優)と矢内原美邦(振付家、劇作家、演出家)による声かけで集まったコレクティブです。アジア諸国のアーティスト、プロデューサー、翻訳家、研究者、映画監督など舞台芸術に関わるメンバーを中心に、さまざまな分野やセクターの人々を巻き込み、対話や交流を重ねながら、作品づくりやネットワーク形成を行います。多種多様な民族・社会・言語・文化・歴史をもつアジアで、女性の声やさまざまなものの声を拾い集め、世界を映し出す鏡である舞台芸術を手段として、社会に発信していきます。

羊屋白玉 (劇作家、演出家、俳優)
 HITSUJIYA Shirokuma
 シアターカンパニー「指輪ホテル」芸術監督。演出家、劇作家、俳優。劇場での公演の他、国内外の現代美術の芸術祭に招聘され、サイトスペシフィックな環境で、地域の文脈と独自の表現を絶妙に結びつけ、演劇作品を発表している。他、アジアの女性舞台芸術家たちとのコレクティブを目指す亜女会(アジア女性舞台芸術会議)代表。「東京」をテーマに、看取りや喪失や終焉に関するネガティブなテーマの取り組みをしている。ニューズウィーク日本誌で「世界が認めた日本人女性100人」に選ばれる。



矢内原美邦 (振付家、演出家、劇作家)
 YANAIHARA Mikuni
 Nibroll主宰。国内外のダンスフェスティバルに招聘される。2001年ランコントレ・コレオグラフィック・アンテルナショナル・ドゥ・セース・サン・ドニ・ナショナル賞、2007年第1回日本ダンスフォーラム大賞受賞。劇作・演出も手がけ2012年岸田國士戯曲賞を受賞。off-Nibroll名義で映像美術作家の高橋啓祐と共に美術作品制作も行い、上海ビエンナーレ、大原美術館、森美術館、仙台メディアテークなどの展覧会に参加。ダンスと演劇、美術などの領域を行き交いながら作品制作を行う。2012年に横浜市文化芸術奨励賞を受賞。近畿大学芸術学部芸術学科舞台芸術専攻准教授。



コーディネーター
小川 希
 TERATOTERAディレクター
 Art Center Ongoing 代表
 2002年から2006年に亘り、東京や横浜の各所を舞台に若手アーティストを対象とした大規模な公募展覧会『Ongoing』を、年一回のペースで企画、開催。その独自の公募・互選システムにより形成した数百名にのぼる若手アーティストネットワークを基盤に、既存の価値にとられない文化の新しい試みを恒常的に実践し発信する場を目指して、2008年1月に東京・吉祥寺に芸術複合施設Art Center Ongoingを設立。現在、同施設の代表を務める。http://www.ongoing.jp
 また、JR中央線高円寺から国分寺を舞台としたアートプロジェクトTERATOTERA(テラトテラ)のディレクターとしても活躍する。http://teratotera.jp
 最近では2016年1月から4月までの3ヶ月、国際交流基金アジアフェロシップとして、東南アジア9カ国に点在する83カ所のアートをスペースをリサーチした。



高嶺格 (美術家、演出家)
 TAKAMINE Tadasu
 1968年鹿児島県生まれ、美術家、演出家。京都市立芸術大学工芸科漆工専攻を卒業後、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)修了。1990年代初頭よりダムタイプの活動に参加、その後も、パフォーマンス、ビデオ、インスタレーション、舞台演出など多様な表現手法を用いて国内外で多数の作品を発表中。著作『在日の恋人』(2008年河出書房新社)他。



西野達 (アーティスト)
 NISHINO Tatsuo
 1960年、名古屋市生まれ。1997年からヨーロッパで屋外を舞台にした作品の発表を始める。モニュメントや街灯などを取り込んで部屋を建築しリビングルームとして公開、あるいは実際にホテルとして営業するなど、公共空間での人々を巻き込む大胆で冒険的なインスタレーションを主におこなう。東京とベルリンを拠点に活動。「The Merlion Hotel」2011シンガポール、「Discovering Columbus」2012 ニューヨークなど。



山城知佳子 (アーティスト、映像作家)
 YAMASHIRO Chikako
 2004年、パフォーマンスを主軸にした映像作品「オキナワTOURIST」「OKINAWA 幕庭クラブ」で初個展。2009年沖縄戦の継承をテーマに体験者の言葉を真似る映像作品「あなたの声は私の喉を通った」以降、フィクション性の高い映像作品へと移行する。「沈む声、紅い息」「クロスの唄」「肉屋の女」、最新作の「土の人」。漂う声が海に漂り、森にこだまし、地底に響き時空を超えて他者と出会う。近年はダンスパフォーマンスを招いた映画や、舞台などジャンルを超えた出会いでコラボレーションを試みる。2018年、「あなたをくぐりぬけて」一残響に、こだまして生きる一短編映画を準備中。



福住廉 (美術評論家)
 FUKUZUMI Ren
 1975年生まれ。著書に「今日の限界芸術」、共著に「日本美術全集第19巻-拡張する戦後美術」ほか多数。「artscape」「共同通信」で連載しているほか、「今日の限界芸術百選」(まつだい「農舞台」、2015)など展覧会の企画も手がける。現在、東京藝術大学、女子美術大学、多摩美術大学非常勤講師。



藪前知子 (東京都現代美術館学芸員) [予定]
 YABUMAE Tomoko
 1974年東京都生まれ。東京都現代美術館学芸員。これまで企画担当した主な展覧会は、「大竹伸朗 全景 1955-2006」(2006)、「MOTコレクション 特集展示 岡崎乾二郎」(2009)、「山口小夜子 未来を着る人」(2015)、「おとなもこどもも考えることはだれの場所?」(2015)、「MOTサテライト2017春 往來往來」(2017) (以上、東京都現代美術館)など。札幌国際芸術祭2017の企画チームに参加。キュレーションの他に、雑誌等に日本の近現代美術についての寄稿多数。



TERATOTERA (テラトテラ)とは?
 TERATOTERA(テラトテラ)は、東京都とアーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)と、吉祥寺に拠点を置いて現在進行形の芸術をフィーチャーしている一般社団法人Ongoingが協働して、JR中央線高円寺駅〜国分寺駅区間をメインとした東京・杉並及び武蔵野、多摩地域を舞台に展開する、地域密着型アートプロジェクトおよびその発信機関の総称です。
 ※本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。

申込先・問い合わせ先|TERATOTERA事務局
 〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-8-7 Art Center Ongoing内
 Tel=090-4737-4798 E-Mail=info@teratotera.jp
 Web=http://teratotera.jp Twitter=https://twitter.com/teratotera
 Facebook=https://www.facebook.com/teratotera

主催：東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、一般社団法人Ongoing

アートプロジェクトのノウハウを本気で学べる連続講座

オイッチニースン

アートプロジェクトの0123 Introduction to Art Project

受講生募集

2018年6月 [平成30年] — 2019年2月 [平成31年]
 隔週木曜日 | 19:30-21:30 | 全17回

会場 | アーツカウンシル東京 ROOM302

受講費 | 30,000円 (学生15,000円)

定員 | 30名

応募締切 2018年6月10日 [平成30年]

今、本当に必要なアートプロジェクトとはなにか?

アートプロジェクトの0123 Introduction to Art Project

最近アートプロジェクトという言葉をよく耳にしませんか？
ここ数年、日本全国で大小様々なアートプロジェクトが開催され、そのどれかに実際に参加したことがある人も少なくないかもしれません。ではそもそもアートプロジェクトってなんのためにあるのでしょうか？それは私たちの生活に本当に必要なものなのでしょうか？アートをプロジェクトするって一体？

本講座はアートプロジェクトがもつ可能性や意義を今一度問い直し、そこから自分達に本当に必要なアートプロジェクトをつくりあげるための知識や技術を獲得することを目的とした全17回の連続講座です。

アートの歴史や現状を学ぶレクチャーから、第一線で活躍するアーティストやディレクターの話、また文章を書くためのノウハウまで、受講者が中心となり様々なディスカッションや実践を重ねながら、ゼミ形式でのレクチャーを進めていきます。

私たちが本当に必要とするアートプロジェクトを追い求め、それを実現させる担い手としての第一歩を踏み出したあなたのご応募をお待ちしています。

今、本当に必要なアートプロジェクトとはなにか？

A **アートの歴史・アートの概念を学ぶ、アーティストを知る**
現代の美術の潮流をジャンルにわけ、毎回ごとに具体例をもとに学習していきます。加えて発展目覚しい東南アジアのアートシーンについても言及します。また現在進行形で活躍するアーティストやディレクターを各回でゲストに招いて、彼らの作品や活動について直接話を聞いていきます。

B **文章力やデザイン力を身につける**
アートを語ること、綴ること、デザインすることを実践方式で学びます。実際に展覧会やアートに関する活動についての文章を書き、ゲスト講師に個々の添削およびレクチャーをしてもらいます。

C **アートプロジェクトを体感する**
現在アートプロジェクトを行うディレクターやキュレーターを招きお話を伺うと共に、TERATOTERA祭りにボランティアスタッフとして参加することで、実践的に現場の動きを学びます。

D **隣人と議論する**
本講座はゼミ形式で行われ、毎回何らかのテーマに沿って、共に受講する参加者とディスカッションを重ねていきます。議論を重ねる中から、最終的には各受講者が自分自身の思い描くアートプロジェクトのイメージを形成することを目指します。

開催概要

日時
基本的に隔週木曜日(6月〜2月)
19:30-21:30 | 全17回
6月21日、7月5日、7月19日、8月2日、8月23日、
9月6日、9月27日、10月4日、10月18日、
11月8日、11月16日・17日・18日(いずれか1日以上)
12月13日、12月27日、1月10日、1月24日、
2月7日、2月21日

会場
アーツカウンシル東京 ROOM302
[東京都千代田区外神田6-11-14
3331 Arts Chiyoda 3F ROOM302]

受講費
30,000円(学生15,000円)

定員
30名

募集要項

応募締切
6月10日(日) 締切

応募方法
件名を「アートプロジェクトの0123申込」とし、以下をご記入の上、**info@teratoterajp**までメールにてお申込みください。

- 1 | お名前(フリガナ)
- 2 | 郵便番号
- 3 | 住所
- 4 | 電話番号
- 5 | メールアドレス
- 6 | 一般 or 学生
- 7 | 所属
- 8 | 応募課題(A・B各300字程度)

- A** あなたにとってのアートとはなんですか？
自分自身の体験をふまえて綴ってください。
- B** 講座に参加しようと思った理由と、受講後の抱負。

お預かりした個人情報は、主催者からの連絡のみに使用し、厳重に管理します。

主催
東京都
アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)
一般社団法人Ongoing

第1回 | 6月21日(木)
イントロダクション

A **第2回 | 7月5日(木)**
コンセプチュアルアート1
マルセル・デュシャンを祖とするコンセプチュアルアートの歴史は、現代美術の歴史そのものといっても過言ではありません。まずはその基本をおさえることから始めましょう。

A **第3回 | 7月19日(木)**
コンセプチュアルアート2
ゲスト講師：**高嶺格**(美術家、演出家)
映像インスタレーション、写真、彫刻のほか、舞台作品も手がける美術家の高嶺格をゲストに迎え、作品や活動についてお話を伺います。

A **第4回 | 8月2日(木)**
インスタレーション1
ゲスト講師：**西野達**(アーティスト)
シンガポールのシンボルとも言えるマライオンを室内に取り込んだホテルなど、大規模なインスタレーションを多数発表している西野達を招き、屋内外でのプロジェクトの現状や可能性についてお話を伺います。

A **第5回 | 8月23日(木)**
インスタレーション2
現代のアートプロジェクトで多く登場するインスタレーション。歴史的にどのような試みが行われたのかを学びます。

A **第6回 | 9月6日(木)**
映像表現1
現代の美術シーンにおいて、映像表現の多様さを見逃すことはできません。映像表現がこれまで何を問題としどんな実験を重ねてきたのかを詳察します。

A **第7回 | 9月27日(木)**
映像表現2
ゲスト講師：**山城知佳子**(アーティスト、映像作家)
地域の歴史や人々の営みを起点に映像作品を制作・発表している山城知佳子を迎え、映像というメディアを用いた表現について、お話を伺います。

B **第8回 | 10月4日(木)**
作品評論の作法を学び、評論を行う
ゲスト講師：**福住廉**(美術評論家)
美術批評家の福住廉をゲストに迎え、展覧会や作品についての基本的な文章の書き方、読む人への伝え方をレクチャーしてもらいます。次の第9回までに、講師の指定する感想文を提出します。

B **第9回 | 10月18日(木)**
作品評論の作法を学び、評論を行う
ゲスト講師：**福住廉**(美術評論家)
展覧会の感想文を事前に提出し、講師の添削を受けます。添削を受けた文章を例に、良い点や改善点を話し合います。また、添削を受け、次回の授業までに各自リライトし、提出します。

B **第10回 | 11月8日(木)**
作品評論の作法を学び、評論を行う
ゲスト講師：**福住廉**(美術評論家)
講師に最終確認してもらった文章を受け取ります。最終版を受講生同士で読み合い、お互いの文章を俯瞰して見る練習をします。

C **第11回 | 11月16日(金)・17日(土)・18日(日)のいずれか1日以上**
アートプロジェクトの現場を見る
複数組のアーティストが参加するTERATOTERA祭りにボランティアスタッフとして参加し、運営側の動きや、アーティストの作品制作の過程を体感します。

C **第12回 | 12月13日(木)**
キュレーターの活動を知る
ゲスト講師：**藪前知子**(東京都現代美術館学芸員)[予定]
東京都現代美術館の工事閉館中に清澄白河エリアを舞台に開催した「MOTサテライト2017春 往来往来」を手がけ、「札幌国際芸術祭2017」にも企画メンバーとして参加された、藪前知子をお招きし、キュレーターとしてのアートプロジェクトへの関わり方について伺います。

C **第13回 | 12月27日(木)**
ディレクターの活動を知る
ゲスト講師：**木野哲也**(TOBIU CAMP代表)、**国松希根太**(飛生アートコミュニティ代表)
北海道を拠点に活躍されているおふたりをお招きし、「飛生芸術祭」のお話などを伺います。

C **第14回 | 1月10日(木)**
プロデューサーの活動を知る
ゲスト講師：**佐塚真啓**(アーティスト、国立奥多摩美術館 館長)
2012年、東京都青梅市にて、普段は作家のアトリエとして使用している旧製材所を「国立奥多摩美術館」として開館し、展覧会を不定期で開催している佐塚真啓を招き、お話を伺います。

C **第15回 | 1月24日(木)**
ディレクターの活動を知る
ゲスト講師：**羊屋白玉**(劇作家、演出家、俳優)、**矢内原美邦**(振付家、演出家、劇作家)
羊屋白玉と矢内原美邦をゲストに招き、アジア諸国の舞台芸術に関わる人とのネットワークづくりや、それを起点にした作品作りなどを行っているアジア女性舞台芸術会議実行委員会の活動についてお話を伺います。

D **第16回 | 2月7日(木)**
受講生によるアートプロジェクトの企画発表

D **第17回 | 2月21日(木)**
受講生によるアートプロジェクトの企画発表